



発行
瀬戸内の環境を守る連絡会
〒673-0886 兵庫県明石市東仲ノ町3-15
Tel&Fax 078-911-7397
E-mail: setokan@hm.h555.net
URL: <http://www.hm.h555.net/~setokan/>

第7回 世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMEC S7) 参加

ポスターセッション概要

今回EMEC Sに参加するにあたり発表する内容は以下の通りです。

まず、全体を通して伝えることは、いかに環境教育を広めていくか。つまるところ、地球市民としての Environmental Literacy を向上させてゆくかという事です。

私達瀬戸環連の歴史、活動を提示し、自然環境の具体として瀬戸内海での例を挙げます。

今回は、ポスターセッションという事なので、具体的な内容よりは視覚性。つまりは文章よりも写真などを重視しようと思います。又、別冊子としてより具体的なものを用意できたらと考えます。

内容としては過去には絶景として詠われた瀬戸内海が今では諸処の公害によって汚染され、現在も改善されていない様子を写真を用いて示し、そういった状況下で瀬戸環連が成立したこと。そして近年のシンポジウムの開催や環境調査（現状の認識と保護、各沿岸のNGO sとの交流）及び、報告書の作成（ヨーロッパやアメリカ、アジアの環境調査およびNGO sとの交流）浜辺の観察会（瀬戸内各沿岸の地元住民や、子供たちとの生き物観察会など）を挙げ、私達の環境保護の対策例を示します。

次にそのうえでこのからの問題点を述べ、どうやって環境教育を進めていくかの手掛かりを示せればと思います。



参加者の
みなさん

参加者の意気込み

加悦 秀樹

環境NGOの運動は現実には起こっている問題に対して解決を求めていきます。そのためには多様な価値観の中で合意形成を図り、解決への過程の中で、人は自然や社会に対して目を開いていきます。環境問題においてNGOの運動は問題を提起し、価値観の転換や創造を生み、解決への手だてを探っていきます。ですからNGOの運動こそ最も効果の高い環境教育ではないかと考えています。これまでのEMEC S会議において瀬戸環連として、何度かNGOによる環境教育について口頭発表を行ってきましたが、意外に日本の環境NGOの実態は知られていません。今回のEMEC S会議ではできるだけ多くの環境関係者に瀬戸環連の活動を紹介したいと思っています。

西村 真実

思えば、両親を通じ中学生の頃に初めて瀬戸環連と出会い、以来30余年の時間が流れて行った。今、懐かしい人々の顔を思い出しながらこれを記している。今回は神戸・タイに続き私にとり3回目のEMEC S。今までとは違い、「海」と名付けた長男を含め、若者3人と共に参加します。瀬戸環連の底に流れる「自然を愛で、感じることのできる感性」を、世代をこえ未来につないで行く事が少しでもできればと願いつつ。

橋本 朋子

私は昨年明石で開催されたシンポジウムで、初めて瀬戸環連に参加させていただきました。神戸の山側に住んでいるという事もあり、今まであまり知る機会のなかった瀬戸内の現状や、みなさんの瀬戸内海をより良くしていきたいという思いに触れ、今まで以上に瀬戸内海のあり方を意識するようになりました。今回のEMEC S会議では、瀬戸内海の現状をより多くの方に理解していただけるよう、微力ですが努力いたします。

小林 和稀

今回フランスで開催されるEMEC S会議に参加させて頂くことになり、初めて瀬戸内海について調べることになりました。今まで神戸に住んでいるにもかかわらず、海と身近に接してきませんでした。瀬戸内海が汚染されていると聞いてもピンときませんでした。けれども調べて行くにつれて、海との親水性が薄れてきている事に対する、行政関係者と市民の間での意識の隔たりを感じました。環境教育によって、人々と海とのつながりがより親密になるように、今回の会議ではしっかりとアプローチしていきたいと思います。

西村 海

こういった国際会議は今回が初めてであり、楽しみである。反面、実際問題今まで瀬戸環連の運動に何も参加していない自分がこういった場で発表に行ってもよいのかとい不安もあるが、行くからには最善を尽くして発表し、自分もいろんな事を吸収したい。

エメックス会議参加者支援についてお願い

瀬戸環連は、1990年の第1回神戸のエメックス会議で、故西村忠行事務局長（当時）がサステイナブルデベロップメントと瀬戸内保全について報告して以来、ポスターセッションに参加するなど、積極的に取り組んできました。

今年の5月9日からのフランスのカーン市での第7回エメックス会議にも、5人のメンバーが参加します。

学生などの若者が中心になり、瀬戸内と環境教育について企画を提出し、ポスターセッションに採用され、展示をして、現場での説明を行います。

今までは多少なりとも行政からの援助などがあつたのですが、今回は自力で行かなければなりません。つきましては入り用が多いところ恐縮ですが、すこしでも代表参加者の財政を援助したく思います、カンパなどの援助をよろしくお願いします。

左記口座に振り込んでいただくか、瀬戸環連に郵送していただけると幸いです。出発後に援助いただいた分につきましても、後日参加メンバーに交付いたします。

事務局長 小沢秀造

EM=イフェクティブマイクロオーガニズムとは

会員 吉野通弘

EMは、琉球大学比嘉教授が開発した人間にとって有用な微生物を共存させた液状の微生物資材です。EMは、食品加工に使われている有用菌を中心に、乳酸菌、酵母、光合成細菌など、安全な微生物のみで構成されています。

これらの微生物は、悪玉菌と呼ばれる有害微生物を抑制し、EMを核にして、微生物を呼び集め、活性化させる力をもっています。さらに物質の劣化や腐敗の原因となる参加を防ぐ抗酸化物質を生成し、生態系のバランスを取り戻す力があります。

河川や海を傷めてきた汚水に代わって、直接EMを投入することで、浄化を促進する活動が、日本の各地の河や海で広がりをみせています。

有明海で、瀬戸内海で大阪湾ですべての生命の源である海を甦らせるEMによる海の浄化と生態系の復活～そんな挑戦をしている人々がいます。

北風美奈子さんの送別会

さる4月22日、瀬戸環連専従事務局員の北風さんの送別会が開かれ、事務局メンバーが参加して和やかな内に開かれました。5年間の活動の紹介やソフトな応対、丁寧な事務処理、関係者や会員への細やかな心遣い等がそれぞれの参加者から語られ名残を惜しみました。併せて事務局次長の滝野さんのご苦勞参会も行われ、労をねぎらいました。

最後に北風さんから謝辞とこれからも時間の許す限り環境問題にも関わっていきたいと話され、花束を贈ってお開きとなりました。

インフォメーション

ミ☆今後の予定

事務局会議 18時半～

5/10(水)、5/22(月)

第7回 世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS 7) 参加

5/9(火)～12(金) フランス カーン市

第31回 全国公害被害者総行動デー

6/6～7(火・水) 環境省との交渉にぜひご参加下さい
(要求事項とりまとめ中)

第28回瀬戸内シンポジウム・第29回瀬戸内沿岸住民集会

8/19(土)～20日(日) 兵庫県姫路市家島

編集後記

専従事務局員の北風さんが退職されて初めてのニュース発行となり、事務局メンバーがそれぞれ時間をやりくりしながら、記事集めから、パソコン入力、編集、印刷、発送と進めていきましたが、なかなか思うように進まず、その先行きが心配されましたが何とか発行までこぎつけました。

できあがりについて、読者のみなさんのご感想がいただければ幸いです。

ニュース発行は紙面を飾る記事が「いのち」です。読者のみなさんからの情報提供、レポート、感想文、ご意見、詩歌等、瀬戸内の環境保全に関することならなんでも結構です。

ぜひ、事務局までお寄せください。お待ちしております。

(英)